

昭和15年7月1日（月）

陽光を仰ぐ。幾分曇りなるも、時々陽が射す。森田西牟田両氏、午後六時過ぎ一緒に退出。此朝、昨夜貽（のこ）せる萩餅頂く。報告物作成。畳屋及び大工来る。工作造営に付き指図す。畳は一枚2,50と云ふ。七時退局。ミワ氏九時四十分まで執務。此の日も、月掛け数件報告せり。夕方水浴。

昭和15年7月2日（火）

大体晴れに近し。午後驟雨。ミワ氏中津局保険に行き、帰途月掛け奨励四件を得たり。七月一日より元利金の取扱い、無集配に限り之を扱わず。大工来たり、模様替え工作見積り百三十円。再査の結果百円余となる。丸久主人に通告せしに、棚の必要なしと云ふ。此分も省けば減額さると信ず。

昭和15年7月3日（水）

晴れ。朝、太田畳屋来たり。午後一時全部表替え。19,25銭、三時半支払いを了す。午後0時30分、中津局に葉書受取に行き、久留米より移牒の久垣某を調べたるも、該当者なしと云ふ。保険の鬼塚氏を訪ふも不明。庶務にて特殊引受帳二部借用。一旦帰り襯衣を換えて、豊後町に再び用紙類借用の為出掛けたり。此日にて月掛け金額百円を獲たりと。六時切り上ぐ。

昭和15年7月4日（木）

晴れ。角野医かかり行く。余真先、続いて田舎の婦人来る。二十分程待つ。其の婦人に先に診させ、余二位に譲る。六七名患者集まる。皆婦人のみ。一昨日は、余と殆

んど一緒に二階に上がりたる小僧氏は、当然先鞭をつけらる。暑気強し、着物類乾かす。英霊の為に弔旗を樹つ。今日も駅長宅を、ミワ氏二回訪問。40口となる金額も、百十貳円を算するに至れり。七時退出。

昭和15年7月5日（金）

晴れ、後曇り。蒸し暑き嫌いあるも、北風可なり吹き、稍凌ぎ良し。昨、小包受渡口木柵の必要なきに付き、其の旨、大工原口某に葉書通知せり。広瀬氏より葉書。別府方面旅行不可能となり、随って中津に行けぬ。七日出発に付き、面会も出来ぬ旨挨拶なりしに付き、返事認め昨夕発送せり。此日、故昌江の一周忌祭祀を行ふ筈、遙かに黙祷す。午後六時過ぎ退去。午前中、睡魔に襲はる。

昭和15年7月6日（土）

晴れ北風相当強烈、幾分暑熱を払拭す。八時三十分、角野医かかり行く。余の前に二人、余の後に一人の患者あり。先生が見えてより幾人か来る。扇風機12インチを昨日よりかけらる。余独りとなりては其の必要なき為、止めて置く。余の番となりし際も、余の後より来たる人を先番位に立たしむ。今日金冠の調子を正さる。午前午後共、ミワ氏切手請求に中津局行。十一時、西牟田氏連行、青果市場に貯金奨励に行かる。豫て戸倉氏の斡旋に因る。佐世保文夫より小包、菓子類を送り越す。チョコレート饅頭等多数。夕方蒸し暑し。椅子を持出し庭に涼を入る。

昭和15年7月7日（日）

例に依り便所掃除。朝食後、髭剃りす。正午頃より活動

見物。西牟田氏郵便当務。薄曇りに掩われつつ蒸し暑し。此日支那事変三周年記念日、国旗を掲揚す。西牟田氏正午過ぎ一旦退出後、再び出局。家の光誌を取出し披見。二時の汽車にて帰宅。山本利夫氏ラジオ不良の由にて、生徒に現物持来さしめらる。夕方より雷雨、次第に降りしきる。夜に入りては相当降る。厳、留守。余独り居りし際、茄子土産に持来る。

昭和15年7月8日（月）

晴れ。原口大工氏を訪ふことになり居る際、偶々大工氏来局。隣の貸屋木柵廃止の件、諒解を得たり。逋信記念日、従業員に交付鏡は中津局に到着。此の朝大貞局長臨局。鏡受取り方申出づ。中津局に通知。逋送便に送達方、更に中島主事に依頼したるに、外装木箱を労銀代に交付することに依り解決。然るに箇数十三ヶ不足し居ること判明。受取に見えしとも各局へ配布見合わせに。鶴居局長より電話あり。十四日会議を開催すべしと云ふ。森田氏身体異状、二時間程二階にて休養。夫れでも六時まで勤務せらる。七時過ぎ、ミワ氏野口氏、中津局江藤氏より講習所入試問題を得て、森久氏に持行く。余は山本氏付託のラジオを中井氏に持行く。補修八時迫り返る。夜ウドン頂く。年金受取り、夏季手当と共にミワ氏に交付す。

昭和15年7月9日（火）

朝、大工氏見積書持参。矢張り百円を超過す。午後、豊後町に為替用紙借用に行く。前日平原氏来局。書留用紙到着したる由なるが、此日も到着せず。止むなく出掛けたるもの。夕方ミワ氏等風呂行き。

昭和15年7月10日（水）

曇り、午後より降雨。八時局報の返事出し、角野医かかり行く。此日は既に先生治療に着手、余の前に一人居るに過ぎず。入れ歯出来、帰りてミワ氏に見て貰ふ。白色を呈し居ると云ふ。夫れまでは金冠と思ひ込み居れり。早速電話にて交渉して貰ふ。取換え差支えなしと云ふ。此日左上奥歯、抜去し貰ふ。根に赤き肉刺あり。強圧するに痛みありしは、蓋し足に因るものと認めらる。午後一時十五分、逓信局長巡視を通告。午後0時30分葉書受取りに行く。雷鳴あり、雨降るらし。販るさ遂に降り出す。中津局小使い掃除に大活動、庶務にては従事員の写真を整理し居れり。余は為替貯金消耗品到着、照合等に忙殺され、迎えに出ること能わず。夕方山本氏来局。ラジオ試験し持戻らる。

昭和15年7月11日（木）

午前晴れがち、次第に曇り。ミワ氏青果市場に二度行かる。現金は二十五日頃になるらし。慰労手当到着、交付す。野口氏44、西牟田氏20、中尾氏15。西牟田氏病氣休養。三時頃、家主の世話をして居る球撞場主、大工を連れ来たり、表硝子戸修理方申し出あり。合馬氏の話は聞き居らぬと云ふ。年金ミワ氏に受取り貰ふ。全部渡す。午後六時過ぎ退出。

昭和15年7月12日（金）

午前中快晴。朝、原口大工来たり、二階にて寸法を取り去る。次いで家主の大工来たり、雨戸修理に着手。山本氏窓口に見え、ラジオ好調を称（たた）ふ。午後0時30

分、中津局に葉書受取りに行く。帰り、水浴す。此の朝
歯科医かかり行く。異種金属は物理的化學的變化を与ふ
恐れありと尋ぬ。鉄にあらざる限り徴候を見ぬと云はる。
乃ち其の儘にして販る。五時雷鳴漸く激し。成子さんより
書面、主人八日内地に向かふと。雨一時的にて止む。其
の後、大分涼しくなる。警察より巡查部長、溝部収入役
の去来に付き、電報着信に対し取調べに来る。ミワ氏、
小児保険募集に心当たり出掛け、一件を獲たり。腹加減
悪く、五時頃便所行き。本朝甘薯食し、又味噌酸味を生
ず。何かに中毒せしか、判断付かず。梅エキス少々頂く。
其の儘収まる。

昭和15年7月13日（土）

晴れ、台風沖縄に在り。其の影響を受け、午後より風強
く、局内に砂塵を飛ばす。五時、局内保険窓口下を整理
す。明日大工来るを以てなり。二時、上原豊作氏来局。
三時七分にて八幡に出発。夫れまで色々話す。ミワ氏の
関係に付き何等話さぬ為、ミワ氏より不満を買ふ。六時
過ぎ、ミワ氏等風呂行き。此の日も西牟田氏休暇。明後、
月曜日より出勤さるる由。

昭和15年7月14日（日）

曇り雨。朝、原口大工氏、他に老大工の外、人夫一人を
連れ、左側の壁を打抜き戸を嵌め、四時頃までには大体
完成しあり。集配員との受け渡しを、新設の窓口にてす
ることに付いて、中島主事の諒解を得置きたり。為替を
右の一角に移し、柵を廻らしたるも、以前より目論見居た
ることを実行したるもの。午前八時過ぎ鶴居局長臨局。
ミワ氏仕度して出席せんとしたるも、其の必要なしと云ふ

にぞ出席せざりし。午後一時、記念品鏡分配、灰皿と共に私にも頂きたり。午後四時三十七分発にて出発。夕食は三時に頂きたり。雨歇みたり。北野五一郎氏と一緒に同車。同氏は新田原より自宅に向かはる。夫れまで色々話す。目下保険係として活動の由。八時博多駅着。台風は北九州を荒らし廻り、被害甚大の由にて、名物の博多祇園山笠も壊れて、惨憺の姿を呈したるが多しと云ふ。家の便所の屋根瓦も二枚飛び去り、支えの赭土が半ば洗われて惨めな姿を示し、庭の桜も上枝悉く折れ、山吹も倒れ、桃の葉も半ば潰（つい）えたり。他家も同断。昨夜より今朝にかけて、最も猛威を揮いひたる如し。トマト頂く。水浴して十時近く寢床。久子病氣以来、会社を罷めたる由。

昭和15年7月15日（月）

曇り、多少驟雨性の降雨あり。午後より霽れかけたり。認印を中津に発送せり。下帯洗濯せしも半ば乾かぬ儘、持越す。トマトを食せし為か腹加減悪し。但し便所行きは朝一回のみ。

昭和15年7月16日（火）

曇り、時々陽光を見る。久子、姉より贈られしサンダル靴を穿きたくてたまらず。未だ幾分道路が悪いと云ふに、洋装して藤岡かかり行きたるらし。年金受取り貰ふ。久子往きて間もなく驟雨到る。其の後幾分立ち直る。蒸し暑し。瓦二枚脱出し、一枚落ちかけて残り居るを拾ふて積重ねしも、他の一枚は墜ち破壊したるらし。これは家主に依頼、復旧方手配の見込み。昨日より澄子、余に上京を促す。余は応諾を洩る。光誌、読み終わる。久子、

八時頃友達と飯る。其の友人が遅滞の責任を負ひ、侘びを入れる。此の間に時々降雨あり。白靴は大分痛みたる如し。午後九時過ぎ寢床。

昭和15年7月17日（水）

朝の間、幾分天候恢復したる観ありしも概して曇り。時々驟雨あり。九時過ぎ澄子外出。小鰯市場より求め来たる。夕食素麺。米内内閣、昨総辞職。「まこと」「人間道」「無窮」読了。向上読み初む。台風再び襲来の兆しあり。佐世保へ過般来、煎り子及びチョコレート饅頭に対する礼状を、後れ駈けに発送す。南西の風強く、夜、戸を鎖す。隣家の娘さん来て居る間を水浴して、寢床。

昭和15年7月18日（木）

曇り、驟雨の模様ありしも降らず。ミワさんより手紙、朝配達。為替窓口、机を取り上げた由。報告物に付き、処理を要するもの等あり。集配員との授受は好調子に履行されつつありと。西牟田氏自業自得の病気にて、今後猶休養を要する如しとあり。米が無いとて持来たらず。素麺を夕食に頂くか、白玉粉にするかに付き考究せられて、白玉粉にて団子を作られ、之を頂く。猫にだけ御飯を与ふ。小鰯、此の日にて処分せり。市内は此日休業。

昭和15年7月19日（金）

台風衰え低気圧型となりたる由。南西の風強く、天気は晴れ。朝久子市場に行きたり。米屋に米少なしとて配達せぬらし。此の朝は昨夕のうどんを頂く。夕飯同様、外米に糯米を入れて子供等食ふ。鯖、市場より久子求め来る。道子に手紙発送。斎藤氏宅にて、表に腰掛け持出し

涼み居たり。向上誌読了。

昭和15年7月20日（土）

晴天。外套、陽に乾す。道子よりの手紙、中津より届く。二郎に弁護士を頼むこととなりしと。菓子御札もあり、上原氏に手紙出す。数回水浴す。外米少ない許りに糯米を多くして、余の為に炊いて呉る。

昭和15年7月21日（日）

土用入り。鰻は貫6，66円とあり。朝より涼風吹き、土用中とも思はれぬ気温を示せり。午前中新聞及び土の文学を読み、午後便所掃除して、剃刀研ぎす。曇り、西北の風。数学稽古す。櫛を求めしめ神にお供えす。心にかかりて、漸く今日果たす。久子午前中市場行き、鯖求め来る。午後五時夕飯後、理髪髭剃り。久子外出先より販宅。六時五十分頃、驟雨来襲。洋服乾かしあり。周章引込ませば、降る真似事して歇みたり。風呂行き、余留守居す。今の驟雨は人をして狼狽せしむ。道路が潤った位に過ぎざりし。

昭和15年7月22日（月）

久子に鶴の卵を一円求めしめ、風呂敷包みの儘、南新町停留場側の菓子屋に預くることとなる。余は八時半出発。徒歩にて電車停留所に至る。其の間バス来たらず。約束の菓子屋に寄る。誰も見世番居らず。風呂敷包み傍らにあるを認め、其の儘抱えて電車に乗る。出発に先立ち、栗原氏より葉書あり。長男鉄道に、長女は郵便局に勤務すとあり。定時中津着。ミワ氏迎えに出居らる。水浴。勤務八時まで。晴れ、幾分曇り。

昭和15年7月23日（火）

晴れなるも、時々曇り。午後葉書受取りに行く。序でに三余女学校へのラジオ修理代1, 10、九州ラジオ普及会より送金越せるに付き、中井に持参す。販りに局に立寄り、葉書を持販る。大掃除、各町内にて努力の態を眺めて帰る。隣家、井浚（さら）えす。甚十郎氏十九日来中、一泊の上門司に赴けりと。五時過ぎ、真坂局長臨局。記念品受取りに立寄られたるなり。少時話して去らる。氷水一杯、馳走す15。午後七時ミワさんと巖方に行く。福岡よりの土産持参。巖大掃除を済まし、表に鬚剃り居る。愛子入浴中。三十分程話して販る。信子の頭を撫でたるに、べそかき泣く。智子は座った儘にて、立つ能わず。八時半販宅。

昭和15年7月24日（水）

曇り、後雷雨。一時間ばかり降り続く。涼風冷ややかなり。山本利夫氏来る。ラジオ修理代に関し話す5, 11。小為替10円証書亡失に対し、払渡し済否手続きす。四銭切手立替ふ。夕飯ぜんざい頂く。野口森田両氏に馳走す。六時三十分、晴れ。竹屋来客多数、徴兵検査壮丁六拾余名宿泊に依る。

昭和15年7月25日（木）

晴れ。此朝、四時前より二階若者喧噪、六時前出立。寂寞森閑となる。本朝より防空演習開始。砂を受取りに行き門口に供ふ。電報別便料を要する旨の電報に依り、豊田町一丁目に至る。電話区域別通話料、全部、記載終了。此日も竹屋、壮丁多数宿泊。午後九時半寢床。

昭和15年7月26日（金）

晴れ。午前中、生果市場に通帳持参。午後、切手請求。200円、角野氏振替分受取り来たり、角野氏宅に持行く。奥さん出て来たり、立替えて貰ひたりとのことに販る。給料交付。此日も竹屋、壮丁多数。

昭和15年7月27日（土）

晴れ。昨夜燈火管制。此日午後二時、柴田ヨシエ氏臨局。三時過ぎ、森田氏と電話分室見学に遣る。木内氏に電話し予め依頼し置く。五時三十分販り、六時過ぎ森田氏と八屋に行く。全員入浴に行き、余留守す。柴田氏幸袋を引上げ、今は叔父の世話になり飯塚に居る由。長弟明専電気科、次弟幸袋工作所職工学校電気科、妹は尋六在学中と云ふ。此の夜も燈火管制、十時頃より解除。此日も壮丁泊まる、頗る賑やかなり。水道栓利かず、市役所へ電話して工夫を招き修理し貰ふ。材料代五銭を要すと。巖ラジオ取次料49円送付あり。

昭和15年7月28日（日）

晴れ。便所掃除す。森田さん出勤。柴田さん午後三時頃、帰途に就く筈にて、森田さんと二時間近く遊ばるる由。巖来る。取次料渡す。五円母堂へ暑中見舞いとして贈呈。ミワさん余に受取可否を尋ぬ。好意納め置くべき旨を以てす。八時近くまで色々仕事す。全員外出、仏壇を購入に出掛く。19円にて求め販る。

昭和15年7月29日（月）

晴れ。髯剃り。角野医かかり行く。既に十名先患者あり、

待つこと久し。十時過ぎ飯宅。森田さんに聞く、柴田さん午後四時の汽車にて出発せりと。午後より葉書受取りに中津局行き。窓口混雑、小包の差出し多し。午後七時近く、ミワ氏野口氏を連れ、昨日求めし巖方への子供等下駄、及び菓子50、盆見舞いす。九時飯り、煎餅土産に持来る。一同と茶を頂き、土産の煎餅を食ふ。色々巖方の子供の咄出て、十時を報ず。

昭和15年7月30日（火）

晴れ。昨、価格表記通常を満州に受付け、門司より返戻しあり。差出人原スミを尋ぬ。区長に至りしに、一行館と云ふ旅館は原姓なりと云ふ。至れば其の人來たり、秘密にして呉れと云ふ。三時まで為替取扱ふを以て、小為替にせよと一緒に家を出づ。余は別路を採り、一旦局に飯り、更に濱館に黒土初子を訪ふ。其人あり、調査を了して飯る。曩の原氏來たり、時間内に小為替取組書留として発送。黒土其の方も回答を発送し、総て順調に進捗したる。上原氏よりは感謝されたるを喜ぶ。四時夕食、新甘薯を頂く。百匁20。夜八時過ぎ巖來る。梅エキス過半分与す。恰度野口氏も列座、茶菓を頂き咄しに興じつつありし。

昭和15年7月31日（水）

晴れ。ミワ氏切手請求。此日、宇佐大祭人出頗る多し。竹屋一家タクシーにて参詣、二時間弱にて飯ると。瀬下ハルヲ來たり。余の通知を受取前にして呉れれば、迷惑せずして済んだものをと云はぬ計りの口吻。恩を讐（あだ）なる態度に昂奮。期日経過後の手続きを執りやらざりし。後刻三省、矢張り、困る者には同情してやることが

肝要と思ひ直して、交付請求書を作成して追送す。清瀬氏傍らにあり。後に御世辞かも知らねど、余に相槌打つ。電信話消耗品到着、受領証発送す。台風近づき風強しとことなるも、それ程にあらず。野口氏も混じり、総出動入浴。第一生命相互へ葉書。暑中見舞いを兼ね、手帖要求。武藤義夫へ金貳円、墓掃除の謝礼。序でに道子縁附きたる旨、通知す。六時五十分退局。